

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	アテディオ配合錠	市販直後調査 平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月
(英名)	ATEDIO Combination Tab.	
(規格・含有量)	1錠中、バルサルタン80mg、シルニジピン10mgを含有	
(一般名)	バルサルタン／シルニジピン配合錠	
(メーカー名)	持田	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	1錠:134.20円	
【薬効コード】	872149	
【薬効分類名】	選択的AT ₁ 受容体ブロッカー／持続性Ca拮抗薬合剤	
効能・効果	高血圧症	
用法・用量	成人には1日1回1錠(バルサルタンとして80mg及びシルニジピンとして10mg)を朝食後に経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ③アリスキレンを投与中の糖尿病患者(ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く)[非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。]	
相互作用	本剤作用増強 アリスキレン、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、シメチジン、アゾール系抗真菌剤、イトラコナゾール、ミコナゾール等、グレープフルーツジュース 本剤作用減弱 非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)・COX-2選択的阻害剤(インドメタシン等)、ピキサロマー、リファンピシン 本剤副作用増強 カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリウムテレン等)、カリウム補給製剤(塩化カリウム) 他剤副作用増強 シクロスポリン、非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)・COX-2選択的阻害剤(インドメタシン等)、リチウム、ジゴキシン 本剤他剤副作用増強 ドロスプレノン・エチニルエストラジオール、他の降圧薬	
副作用	重大な副作用 血管浮腫、肝炎、肝機能障害、黄疸、腎不全、高カリウム血症、ショック、失神、意識消失、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、間質性肺炎、低血糖、横紋筋融解症、中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、多形紅斑、天疱瘡、類天疱瘡 その他 高尿酸血症、ALT (GPT) 増加、血中カリウム増加、頭痛、便秘 等	

(薬品名)	エフィエント錠 3.75mg・5mg	市販直後調査 平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月
(英名)	EFIENT TABLETS	
(規格・含有量)	3.75mg:1錠中、プラスゲレル塩酸塩4.12mg(プラスゲレルとして3.75mg)を含有 5mg:1錠中、プラスゲレル塩酸塩5.49mg(プラスゲレルとして5mg)を含有	
(一般名)	プラスゲレル塩酸塩錠	
(メーカー名)	第一三共	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	3.75mg1錠:282.70円、5mg1錠:359.80円	
【薬効コード】	873399	
【薬効分類名】	抗血小板剤	
効能・効果	経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患 急性冠症候群(不安定狭心症、非 ST 上昇心筋梗塞、ST 上昇心筋梗塞)、安定狭心症、陳旧性心筋梗塞	
用法・用量	通常、成人には、投与開始日にプラスゲレルとして20mgを1日1回経口投与し、その後、維持用量として1日1回3.75mgを経口投与する。	
禁忌	①出血している患者(血友病、頭蓋内出血、消化管出血、尿路出血、喀血、硝子体出血等)[出血を助長するおそれがある。] ②本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤他剤副作用増強 抗凝固剤(ワルファリン、ヘパリン、エドキサパン等)、血小板凝集抑制作用を有する薬剤(アスピリン等)、血栓溶解剤(ウロキナーゼ、アルテプララーゼ等)、非ステロイド性消炎鎮痛剤(ロキソプロフェン、ナプロキセン等)	
副作用	重大な副作用 出血、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、過敏症 重大な副作用(類薬) 肝機能障害、黄疸、無顆粒球症、再生不良性貧血を含む汎血球減少症 その他 皮下出血、鼻出血、血尿、血管穿刺部位血腫及び皮下血腫 等	

(薬品名)	スプレキュア MP 皮下注用 1.8	劇
(英名)	Suprecur MP1.8 for S.C.Inj.	
(規格・含有量)	1筒中、プセレリン酢酸塩として1.80mgを含有	
(一般名)	プセレリン酢酸塩徐放性製剤	
(メーカー名)	持田	
【薬価収載日】	2006年12月	
【薬価】	1筒:30,911円	
【薬効コード】	872499	
【薬効分類名】	GnRH誘導体制剤	
効能・効果	子宮内膜症 子宮筋腫の縮小及び子宮筋腫に基づく下記諸症状の改善 過多月経、下腹痛、腰痛、貧血	
用法・用量	通常、成人には4週に1回1筒(プセレリン酢酸塩として1.8mg)を皮下に投与する。なお、初回投与は月経周期1～5日目に行う。	
禁忌	①診断のつかない異常性器出血のある患者[類似疾患(悪性腫瘍など)のおそれがある。] ②妊婦又は妊娠している可能性のある患者[妊娠状態の継続ができないおそれがある。] ③授乳期の患者[動物実験で母乳への移行が認められている。] ④本剤の成分又は他の GnRH 誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤作用減弱 性ホルモン製剤(エストラジオール誘導体、エストリオール誘導体、結合型エストロゲン製剤、卵胞ホルモンと黄体ホルモンの合剤、両性混合ホルモン剤等) 他剤作用減弱 糖尿病薬(インスリン製剤、トルブタミド、グリベンクラミド等)	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状、うつ症状、脱毛、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、血小板減少、白血球減少、不正出血、卵巣のう胞破裂、肝機能障害、黄疸、糖尿病の発症又は増悪 その他 ほてり、不正出血、頭痛、肩こり、注射部位の疼痛・硬結・発赤・そう痒感 等	

(薬品名) フォシーガ錠 5mg		市販直後調査 平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月
(英名)	Forxiga Tablets	
(規格・含有量)	1 錠中、ダパグリフロジン 5mg(ダパグリフロジンプロピレングリコール水和物として 6.15mg)を含有	
(一般名)	ダパグリフロジンプロピレングリコール錠	
(メーカー名)	小野	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	1錠:205.50円	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	選択的SGLT2阻害剤－2型糖尿病治療剤－	
効能・効果	2 型糖尿病	
用法・用量	通常、成人にはダパグリフロジンとして5mgを1日1回経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら10mg1日1回に増量することができる。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡の患者〔輸液、インスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤の投与は適さない。〕 ③重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者〔インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。〕	
相互作用	本剤作用増強 血糖降下作用を増強する薬剤(β遮断薬、サリチル酸剤、モノアミン酸化酵素阻害剤等) 他剤作用増強 利尿薬(ループ利尿薬、サイアザイド系利尿薬等) 本剤作用減弱 血糖降下作用を減弱する薬剤(副腎皮質ホルモン、甲状腺ホルモン、アドレナリン等) 本剤他剤副作用増強 糖尿病用薬(スルホニルウレア剤、チアゾリジン系薬剤、ビグアナイド系薬剤、α-グルコシダーゼ阻害剤、速効型インスリン分泌促進剤、DPP-4阻害剤、GLP-1受容体作動薬、インスリン製剤等)	
副作用	重大な副作用 低血糖、腎盂腎炎 その他 頻尿、口渇、性器感染、尿路感染 等	

(薬品名) フルティフォーム 125 エアゾール 56 吸入用	
(英名)	Flutiform Aerosol
(規格・含有量)	1回噴霧量中、フルチカゾンプロピオン酸エステル125 μg、ホルモテロールフマル酸塩水和物5 μgを含有
(一般名)	フルチカゾンプロピオン酸エステル/ホルモテロールフマル酸塩水和物吸入剤
(メーカー名)	杏林
【薬価収載日】	2013年11月
【薬価】	1瓶:3213.90円
【薬効コード】	87229
【薬効分類名】	喘息治療配合剤
効能・効果	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合)
用法・用量	通常、成人には、フルティフォーム50エアゾール(フルチカゾンプロピオン酸エステルとして50 μg及びホルモテロールフマル酸塩水和物として5 μg)を1回2吸入、1日2回投与する。なお、症状に応じてフルティフォーム125エアゾール(フルチカゾンプロピオン酸エステルとして125 μg及びホルモテロールフマル酸塩水和物として5 μg)を1回2～4吸入、1日2回投与する。
禁忌	①有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者〔ステロイドの作用により症状を増悪させるおそれがある。〕 ②本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
相互作用	本剤作用増強 CYP3A4阻害作用を有する薬剤(リトナビル等) 本剤作用減弱 β遮断剤(アテノロール等) 他剤副作用増強 QT間隔延長を起こすことが知られている薬剤(抗不整脈剤、三環系抗うつ剤等) 本剤他剤副作用増強 カテコールアミン(アドレナリン、イソプレナリン等)、キサンチン誘導体(テオフィリン、アミノフィリン等)、ステロイド剤(プレドニゾン、ベタメタゾン等)、利尿剤(フロセミド等)
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、重篤な血清カリウム値低下、肺炎 その他 嘔声、血中クレアチンホスホキナーゼ増加、動悸、喘息、口内炎 等

削除医薬品通知

●8月1日より

ナサニール点鼻液 0.2%	使用量減少の為 8/1 削除
ジメリン錠 250 mg	使用量減少の為 8/1 削除
パイロテンシン錠 10 mg	使用量減少の為 8/1 削除
アポプロン散 0.1%	使用量減少の為 8/1 削除
アミサリン錠 125 mg	使用量減少の為 8/1 削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
テイコプラニン点滴静注用 400 mg「明治」	注射用タゴシッド 200 mg
ラグノスゼリー分包 16.05g	ラクツロース末・P6g ヒート
ゾレドロン酸点滴静注 4 mg/100mL バッグ「NK」	ゾメタ点滴静注用 4 mg
エルタシン軟膏 0.1%	ゲンタシン軟膏 0.1%
アルベカシン硫酸塩注射液 25 mg「ケミファ」	ハベカシン注射液 25 mg
アルベカシン硫酸塩注射液 200 mg「ケミファ」	ハベカシン注射液 200 mg/4mL

適応追加通知

献血グロベニン-I静注用 2500mg	<p>【効能・効果】</p> <p>◇スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症(ステロイド剤の効果不十分な場合)</p> <p>【用法・用量】</p> <p>◇スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症: 通常、1日に人免疫グロブリンGとして400mg(8mL)/kg体重を5日間連日点滴静注する。</p>
ファイバ注射用 500 1000	<p>【効能・効果】</p> <p>血液凝固第VIII因子又は第IX因子インヒビターを保有する患者に対し、血漿中の血液凝固活性を補いその出血傾向を抑制する。</p> <p>【用法・用量】</p> <p>本品1瓶を添付の溶剤で溶解し、緩徐に静注又は点滴静注する(1分間に体重1kg当たり、2単位をこえる注射速度はさけること)。出血時に投与する場合、通常体重1kg当たり50~100単位を8~12時間間隔で投与する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。ただし、原則として1日最大投与量は体重1kg当たり200単位をこえないこととする。定期的に投与する場合、通常体重1kg当たり70~100単位を1日おきに投与する。</p>